

夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校

学校だより 第1号

令和4年4月22日

新年度、そして10年目がスタートしました!

今年度も校庭には、先輩たちが心を込めて育てた色とりどりの花が、見事に咲きほこっています。あらためまして、在校生の皆さん、進級おめでとうございます。そして、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

コロナ禍でむかえる新年度も3回目となり、良くも悪くも消毒、換気、密を避けた取り組みにスムーズさが感じられるようになってきました。そんな中、無事に始業式、入学式を予定通り行えたことは何よりであったと思います。今後も先が見えない部分はありますが、縮小削減してよかったところ、是非とも復活させたいところを整理して、より良い教育活動が実践できるよう、再構築していきたいと考えています。



新学期が始まり2週間、入学式から10日程経ちました。各学年学級では自己紹介や今年度の自分の目標、アピールポイントを話したり掲示したりしています。学級目標もそろそろ決まってきたようで、どんな意図でテーマやフレーズを決めたのか出揃うのが楽しみです。作業学習では18日に1年生が作業体験を終え、21日には前期作業班が本格スタートしました。各作業班では、オリエンテーションとして、作業日誌の書き方、身だしなみチェックや入退室の仕方、挨拶や姿勢、用具の使い方等々、基本的なことをレクチャーしています。委員会活動も所属が決まり、委員長、副委員長が中心となり、どんな活動で学校を楽しく過ごしやすい学校にできるか、活動方針を考えていました。作業学習や委員会など縦割りの活動では、当たり前のことですが2・3年生がリードしてくれています。その姿は本当に頼もしい限りです。言葉遣いや所作など、わかりやすく説明したり実践して表したりしてくれています。言葉や手本では表しにくい、「雰囲気」や「間」「感じ方」などもどうにかして伝えようとする姿勢は素晴らしいの一言に尽きます。正直なところ、去年の今頃、返事をすることもメモを取ることもままならない様子の生徒も見受けられました。でも今の姿を見ると、1年間でここまで成長するのか、こんなに変わるのかという、驚きと喜びを感じています。今年度の新入生も、来年の今頃、どんな成長を遂げているか楽しみでなりません。こうやって先輩から後輩へ、またその次の後輩へと引き継がれてきたのだらうと歴史の重みを感じました。

今年度は開校10周年です。これまでの先輩方が築き上げてきた歴史を振り返る良い機会だと思います。先にも述べましたが、コロナ禍での教育活動の精選と同じように、伝統として守るべきところは守り、新たに次の10年の礎になるように変えられるところは変えていく年にできたらと思います。生徒だけ頑張っても、先生だけ頑張っても学校は成り立ちません。生徒の皆さん、教職員一同、保護者の方々、そして地域の協力も得て、より良い高等特別支援学校を一緒に築いていきましょう。一年間ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 三宅 健二郎